

学校の課題解決及び教師の 授業力向上をめざす

校内研究の進め方

平成27年4月14日
竹田教育事務所

学校の目標達成のためには・・・

- 適正な目標管理
- それを支える学校運営体制



個々の教師の指導力・授業力向上



校内研究

これまでの校内研究の問題点

- **校内研究のテーマ**が重点目標と十分関連付けられていない
- **具体的な達成目標・検証方法**が設定されていない
→改善の視点が定まらない
具体的な授業改善に結び付かない
- **管理職の指導・監督のもと、組織を活用し、学校全体で進める**という意識が低い

「目標達成に向けた組織的な授業改善」推進手引き ～マネジメントサイクルを取り入れた授業改善～

1. 授業改善にPDCAサイクルを取り入れること
2. 管理職がリーダーシップ・マネジメントシップを発揮し、授業改善を組織的に進めること。



- ① 「授業改善の5点セット」の作成
- ② 「授業改善計画」の作成と実施
 - ・DO 授業実践・研究協議等の留意点
 - ・CHECK 取組指標・検証指標を使った分析の方法
 - ・ACTION 新しい授業改善計画の立案
- ③ 学校全体で授業改善を進める体制作り

PLAN

授業改善のPDCAサイクル

PLAN

授業改善5点セットの立案・修正

授業改善計画の立案と体制作り

① 授業改善の5点セットの作成

② 授業改善計画の策定

③ 管理職・主任等の役割分担

ACTION

新しい授業改善計画の立案と実施

成果と課題の分析・改善策の立案

DO

授業改善の推進

取組内容・取組指標に基づく実践

CHECK

成果と課題の分析

取組指標・検証指標に基づく評価

① 【授業改善テーマ】

学校の教育目標・重点目標を**授業改善の視点から**具体化して設定します。

② 【授業改善の重点】

【授業改善テーマ】を**具体化して**設定します。

③ 【取組内容】

【授業改善の重点】を**授業場面に具体化したもの**として設定します。

④ 【取組指標】

【取組内容】を日常の授業実践において**確実に**行うために設定します。

⑤ 【検証指標】

【取組内容】の成果を、**子どもの変容から達成状況を評価する**ために設定します。

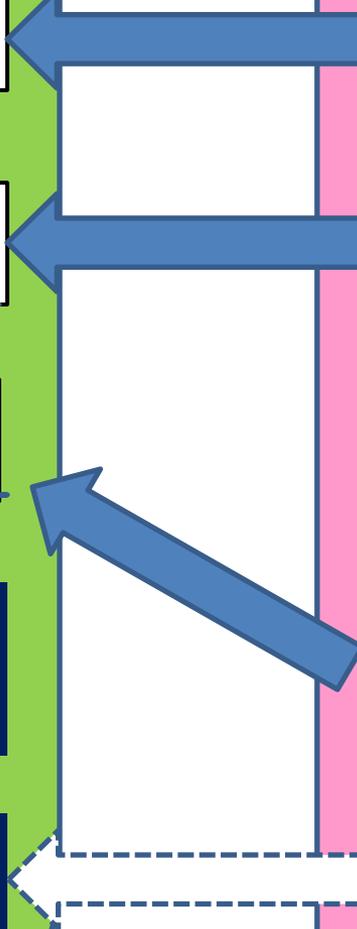
「授業改善の5点セット」と「研究の構想」の関係

授業改善の5点セット

- ① **【授業改善テーマ】**
授業改善の視点から具体化して設定するもの
- ② **【授業改善の重点】**
【授業改善テーマ】を具体化して設定するもの
- ③ **【取組内容】**
授業場面において具体化したものとして設定
- ④ **【取組指標】**
【取組内容】を日常の授業実践において確実に
行うために設定
- ⑤ **【検証指標】**
子どもの変容から達成状況を評価するために
設定

研究の構想

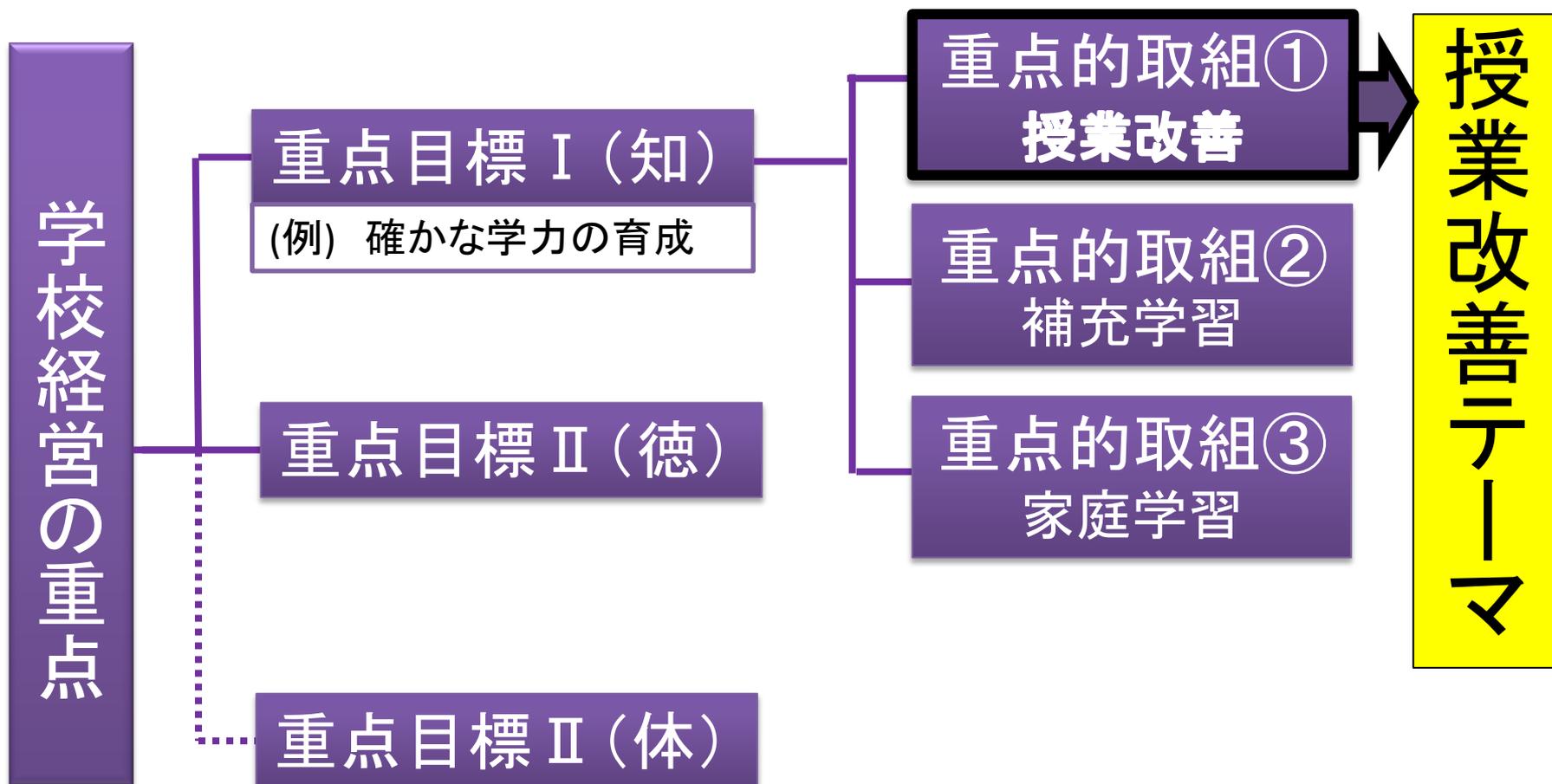
- ① **【研究テーマ】**
- ② **【サブテーマ】**
- ③ **【研究仮説】**
- ④ **【研究内容】**
- ⑤ **【めざす子ども】**



① 授業改善の5点セットの作成

〈STEP1〉【授業改善テーマ】を設定します。

ポイント: 学校の教育目標・重点目標を**授業改善の視点から**具体化して設定します。



〈STEP1〉【授業改善テーマ】を設定します。

Q 校内研究のテーマが授業改善ではない場合は？

A 基本的には、どの学校においても授業改善計画を作成し、授業改善を進める。

■ 人権教育・特別活動の充実等が研究テーマの学校
テーマの絞り込み等工夫で、多くの場合、授業改善を
テーマとすることができる。

■ 学校の重点目標が体育だけ、徳育だけの場合
体育の時間の授業改善や道徳の時間の授業改善等
が考えられる。

学校の教育活動の中心は「授業」という考え方で

① 授業改善の5点セットの作成

〈STEP1〉【授業改善テーマ】を設定します。

ポイント: 学校の教育目標・重点目標を**授業改善の視点から**具体化して設定します。

(例)

【重点目標】
確かな学力の育成



【授業改善テーマ】
考える力を育てる授業

〈STEP2〉【授業改善の重点】を設定します。

ポイント:【授業改善テーマ】を**具体化して**設定します。

(例)

【授業改善テーマ】
考える力を育てる授業



【授業改善の重点】

1. 自分の考えを書き表す授業の推進
2. 自分の考えを伝え合う授業の推進

〈STEP3〉【取組内容】を設定します。

【授業改善の重点】を**授業場面に具体化したもの**として設定します。

(例)

【授業改善の重点】

1. 自分の考えを書き表す授業の推進
2. 自分の考えを伝え合う授業の推進



【取組内容】

1. 課題に対して、根拠とともに自分の考えを書く活動を設定する。
2. 考えを出し合い、練り合う活動を設定する。

〈STEP4〉【取組指標】を設定します。

【取組内容】を日常の授業実践において**確実に**行うために設定します。

(例)

【取組内容】

1. 課題に対して、根拠とともに自分の考えを書く活動を設定する。
2. 考えを出し合い、練り合う活動を設定する。



【取組指標】

1. 操作活動やペア学習を取り入れ、どの子も考えを書けるよう支援する。
2. 考えの違いを板書に位置付け、立場を明確にして意見交流を進める。

〈STEP5〉【検証指標】を設定します。

【取組内容】の成果を、**子どもの変容から達成状況を評価する**ために設定します。

(例)

【取組指標】

1. 操作活動やペア学習を取り入れ、どの子も考えを書けるよう支援する。
2. 考えの違いを板書に位置付け、立場を明確にして意見交流を進める。

【検証指標】

1. 課題に対する考えを絵や図、言葉等を用いてノートに書く子どもを8割以上にする。
2. 考えを深めたり広げたりする子どもを8割以上にする。(振り返りや児童アンケートから評価)

〈STEP5〉【検証指標】を設定します。

【検証指標】の設定に活用

- ・各種質問紙調査の結果
- ・各種学力調査の結果（平均正答率や偏差値、達成率等）
- ・学校独自で作成した単元テストや定期考査の結果
- ・観点別評価の結果
- ・学校評価の結果 等

※教科毎・学年毎に

長期的なルーブリック（目標に準拠した評価のための基準）を作成し、検証指標とする方法もある

《長期的ルーブリック 小学校第3学年 理科》 広島県教育センター「授業研究ハンドブック」

レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
<p>観察、実験の結果について、そのデータを記入できていない。 比較する視点について理解できていない。</p>	<p>《表, 図》 観察、実験の結果について、与えられた表や図に整理したり、表現したりすることができている。</p>	<p>《表, 図》 観察、実験の結果について、比較する視点を与えることで、表に分類したり、図で表現したりし、それを基に差異点や共通点に気付いている。</p>	<p>《表, 図》 観察、実験の結果について、比較する視点を与えることで、表に分類したり、図で表現したりし、それを基に差異点や共通点に気づき、一般化した結論を導き出している。</p>	<p>観察、実験の結果について、適切な手段（表やグラフなど）を自ら選択して整理し、それを基に差異点や共通点（グラフの特徴）に気づき、一般化した結論（規則性）を導き出している。</p>
	<p>《グラフ》 観察、実験の結果について、与えられたグラフに値を当てはめている。</p>	<p>《グラフ》 観察、実験の結果について、与えられたグラフに値を当てはめ、その特徴に気付いている。</p>	<p>《グラフ》 観察、実験の結果について、与えられたグラフに値を当てはめ、その特徴に気づき、規則性を導き出している。</p>	

検証指標例：10月までに、レベル4の児童を80%にする

① 授業改善の5点セットの作成

【取組内容①】



【取組指標①】



【検証指標①】

- ＜確かめる！＞
- ①【取組内容】を【取組指標】に基づいて行えば【検証指標】を達成できる
 - ②【検証指標】を達成すれば「達成指標」に確実に近づく

「学校経営の重点」における達成指標

授業改善は「授業改善の5点セット」に基づき、
取組状況や児童生徒の変容を確認しながら年間を通して
進める → 「授業改善計画」の作成

学校全体

(日々の)
授業実践

各教員が取り組む授業改善の内容の明確化

研究協議

定期的な校内研究の時間等
の取組計画

研究授業

目的・ねらいをもった
研究授業

学年部会・教科部会等

管理職の授業観察

Q 授業改善計画は小中学校で作成されている「研究全体計画」と同じもの？

A 同様のものが作成されている学校は、＜授業改善計画のイメージ＞と照らし合わせて加筆・修正

【ポイント】

- ① 各教員の取り組む授業改善内容の明確化
- ② 年間2回以上のPDCAを意識した計画（P21も参照）
- ③ 管理職の授業観察の位置づけ
 - ・ 取組内容の実施状況の把握と指導
 - ・ 授業改善の進捗状況の把握と研究協議へのフィードバック

校長・教頭

- 学校の教育目標及び重点目標を示す。
- 校内研究の方向性や組織作りの決定
- 適切な指導・助言

主幹教諭・教務主任

校内研究全体の推進・進捗管理を行う

指導教諭・研究主任

授業改善の実務の推進、取組の進捗管理を行う

【授業実践のポイント】

- ①一人一人の日々の取組こそが授業改善の中心
- ②指標に基づき短期的に授業を検証・改善

【研究授業のポイント】

全員が「授業改善の5点セット」を常に意識して協議する

- 参加者全員の授業の質を変える研究授業にする
- ①事後検討会における協議の柱の明確化
 - ②事後検討会における検証イメージ(P18)を参考に研究主任が次のステップを明確にする。

【互見授業のポイント】

- ①自らの授業の課題・他の教員の良いところや課題を持って実践交流する。
- ②【取組内容】に基づく視点で授業を見合う。
- ③これを機会に、指導案を書く力を向上させることが望ましい。

CHECK

成果と課題の分析

ACTION

新しい授業改善計画の立案と
実施

【ポイント】

- ①【取組指標】と【検証指標】に則して評価
- ②検証・改善プロセスのイメージ (P25)
検証・改善の具体例 (P26)を参考に
筋道立てて
次のステップの改善点を明確にする。
- ③教育課程に反映すべきことは反映する

校内研究PDCAのイメージ

PLAN 【授業改善の5点セット】

日常の授業実践

DO

テーマを持って参観
自身の実践から協議参加

研究授業Ⅰ

成果をフィードバック
課題改善に向けての取組

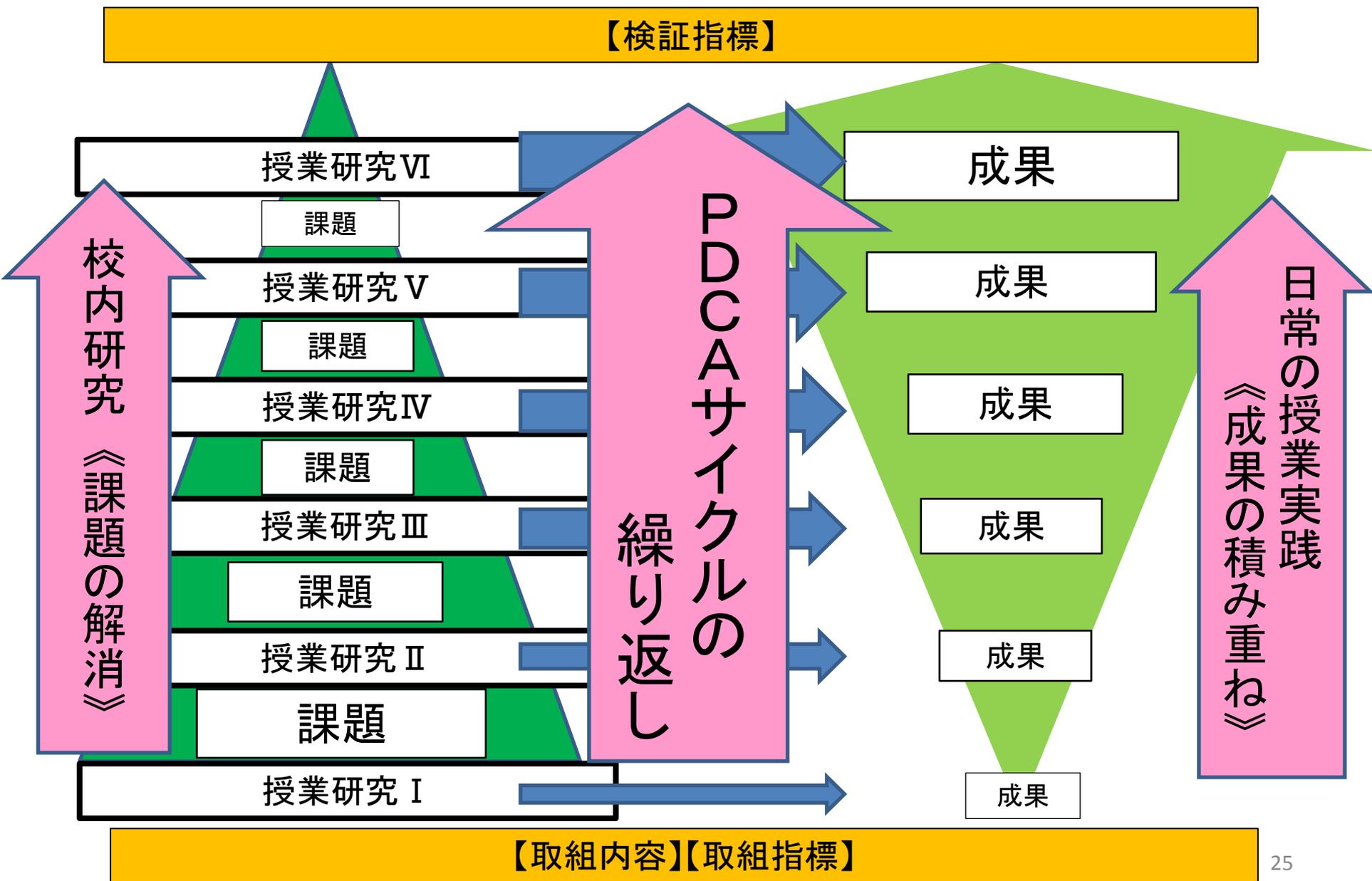
研究授業Ⅱ

CHECK 【取組指標】の達成状況 【検証指標】に即した
具体的な評価

ACTION 検証結果に基づく、新たな【授業改善の5点
(PLAN) セット】作成

一回目のサイクル

授業実践に関わる校内研究PDCAイメージ



校内研究の具体的な進め方

《4月～5月》

- 「授業改善の5点セット」、それに基づいた「授業改善計画」を作成、共通理解する。
- めざす授業像を共有する。

《5月～2月》

- 「授業改善計画」に基づき、日常の授業を行う。
- 研究授業を事前研・提案授業・事後研を工夫して行い、取組内容を検証する。
- 日常の授業において、研究授業で得た成果を生かすとともに、課題については解決策を探り、次回の研究授業（協議）にて交流する。
- 校内研究と連動させて互見授業を行う。学校規模に合わせて参観できる体制を工夫する。

《2月～3月》

- 「学校経営の重点」の達成指標に照らし、「授業改善の5点セット」の検証・次年度に向けての改善を行う。

これからの目指す授業

「付けたい力を意識した密度の濃い授業」

知識・技能

思考力・判断力・表現力

双方を育成する
テンポ良い授業

「新大分スタンダード」に基づく授業
～「学びに向かう力」と思考力・判断力・表現力を育成～



【背景】

- 次期学習指導要領の改訂に向けて
新しい時代に必要な資質・能力の明確化
課題の発見と解決に向けた主体的・協働的な学びの重視
- 大学入試改革（平成32年度）
思考力・判断力・表現力等を中心に評価

ご静聴ありがとうございました。